

鼻風邪が長引いているときは、副鼻腔に炎症が起きているかも。耳鼻咽喉科を受診しましょう。

イラスト/杉美奈 取材・文/高橋姿子 編集協力/橋内美佳

教えてもらったのは

笠井 創先生

笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療所院長。千葉大学大学院卒業後、国立がんセンター病院、千葉大学医学部非常勤講師などを経て、現職。耳鼻咽喉科全般の診断と治療に詳しい。

長引く風邪が原因で副鼻腔に炎症が

風邪がなかなか治らない。微熱が続く。鼻詰まりで黄色い鼻水が出るようになった。頭痛もするし頭を下に向けるとその痛みが強くなる……。こんなときは副鼻腔炎になっているかもしれません。

「副鼻腔炎とは聞きなれない病名かもしれませんが、一般には蓄膿症として知られている病気です。鼻の奥、つまり頭の内部には、骨で形づくられた大小幾つかの空洞があるのですが、この空洞を副鼻腔といいますが（下イラスト参照）。

ここに炎症が起きるのが副鼻腔炎です」と笠井創先生。

副鼻腔は空洞で、普通の状態なら空気が通っています。「そこに何らかの原因で炎症が起きると、粘膜が腫れ上がり、分泌物がたまってしまふのです。換気ができないので、その分泌物はなかなか出ない状態になってしまいます」。

そこで鼻詰まり、鼻水、その他のさまざまな症状が出るわけです。

「副鼻腔炎になるのは、ほとんどは風邪が長引いたとき。風邪の90%以上はウイルスが原因で起こりますが、その普通の風邪の段階でも、鼻の奥にまで届いてウイル

ス性の副鼻腔炎となることがあります。そして、風邪が長引いて細菌感染を起こすと、細菌性の副鼻腔炎となることがあります」

ウィルス性の風邪はせいぜい1週間ほどで治ります。ところが風邪が長引いているとき、あるいは鼻の症状があるときは副鼻腔炎の可能性が高いのです。

また、数は少ないとはいえ、風邪のほかに副鼻腔炎の原因はいろいろあります。虫菌がひどくなり、炎症が副鼻腔に入り込んで起こることもあるし、小さな子どもの場合には鼻の奥に異物が詰まって炎症の原因となることも。

ずっとグズグズ。なかなか鼻風邪が治らないなあ

「ずっとグズグズ。なかなか鼻風邪が治らないなあ」



「春先のアレルギー性鼻炎や花粉症のシーズンには、それらがもとで副鼻腔炎となることもあります。アレルギー性鼻炎は鼻の入り口、鼻腔で起きますが、奥のほうまで炎症が及べば副鼻腔炎です。皆さんも存じのようにアレルギー性鼻炎はくしゃみ、鼻水、鼻詰まりが三大症状ですが、その鼻水はさらさらの水のような状態が特徴です。それが粘っこい鼻水、黄色い鼻水になったときには奥の炎症、副鼻腔炎になっています」

のみ薬、鼻の治療、ネブライザー治療で治す

鼻の症状があるとき、風邪が長引いているときは、耳鼻咽喉科を受診して治療を受けましょう。

「治療の基本は粘膜の腫れをとり、分泌物を外に出して通気性をよくすることです。炎症を抑える消炎剤や、細菌性の場合には抗生剤などのみ薬を使い、点鼻薬などで鼻粘膜の腫れを鎮め、鼻の通りがよくなったところで、薬の入っ

た蒸気を副鼻腔に通すネブライザー治療や、薬を直接、副鼻腔に注入する治療を行ないます」

風邪などから起こる副鼻腔炎は急性副鼻腔炎で、ほとんどの場合はこうした治療で治ります。ところが治療が遅れたり、炎症が重症だったり、あるいは鼻粘膜が弱いなどの、もともと体質があつて副鼻腔炎を繰り返す場合は、慢性副鼻腔炎になることもあります。

「慢性副鼻腔炎の場合は、急性のように強い症状が出ることはあまりありません。ただ、鼻詰まり、鼻水、においがわからないといった鼻の症状がいつもあることが多いのです。そして鼻水がのどに回って咽頭の炎症が起きたり、気管支炎が起きることもあります」

重症のときは手術の場合も

慢性のときの治療も基本的には

急性の場合と同様ですが、粘膜の炎症がひどいときや、粘膜の炎症がホリープ状になってしまい、鼻茸といわれる状態になっているときには手術で取り除くこともあります。「粘膜や鼻茸を取り去る手術は、かつては大手術となることも多かったのですが、現在では、鼻内手術といつて、鼻からの手術ですむことがほとんど。手術をすすめられたときには主治医とよく相談してから決めることをおすすめします」。

急性も、慢性の場合も副鼻腔炎は風邪から起こることが多いので、予防法は風邪の予防と同じです。「栄養バランスを考えた食事をして、運動をして体の抵抗力をつけ、気温に応じて衣服の調節をして、寝冷え、湯冷めをしないようにすること。そうしたふだんからの健康管理が副鼻腔炎を予防するのです」

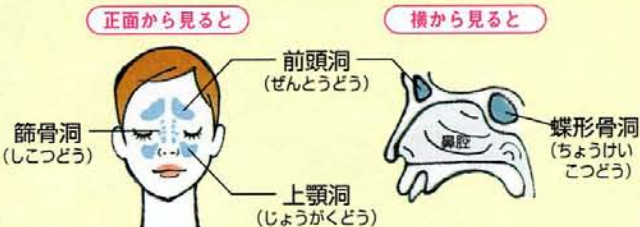
急性の場合と同様ですが、粘膜の炎症がひどいときや、粘膜の炎症がホリープ状になってしまい、鼻茸といわれる状態になっているときには手術で取り除くこともあります。「粘膜や鼻茸を取り去る手術は、かつては大手術となることも多かったのですが、現在では、鼻内手術といつて、鼻からの手術ですむことがほとんど。手術をすすめられたときには主治医とよく相談してから決めることをおすすめします」。

急性の場合と同様ですが、粘膜の炎症がひどいときや、粘膜の炎症がホリープ状になってしまい、鼻茸といわれる状態になっているときには手術で取り除くこともあります。「粘膜や鼻茸を取り去る手術は、かつては大手術となることも多かったのですが、現在では、鼻内手術といつて、鼻からの手術ですむことがほとんど。手術をすすめられたときには主治医とよく相談してから決めることをおすすめします」。

急性の場合と同様ですが、粘膜の炎症がひどいときや、粘膜の炎症がホリープ状になってしまい、鼻茸といわれる状態になっているときには手術で取り除くこともあります。「粘膜や鼻茸を取り去る手術は、かつては大手術となることも多かったのですが、現在では、鼻内手術といつて、鼻からの手術ですむことがほとんど。手術をすすめられたときには主治医とよく相談してから決めることをおすすめします」。

鼻の奥の仕組み

ふだんは見えない鼻の内部。下にある4つの部分が副鼻腔と呼ばれています。



ほお骨の下にある上顎洞、目と目の間にある篩骨洞、額にある前頭洞、鼻腔の奥にあるのが蝶形骨洞。これら4つの副鼻腔は、小さな通路で鼻腔とつながっています。

鼻風邪が長引くなら、早めに病院へ行きましょうね

